

全国校友滋賀大会の集いの感想

安松弘行



今年の全国校友滋賀大会は、【明治はひとつ・びわ湖に集う紫紺の旗！】のスローガンの下、第51回滋賀大会に1,200名の校友が集い、大津市の大津プリンスホテルのプリンスホールと大会会場のコンベンションホール「淡海」にて、9月5日(土)～7日(月)の2泊3日で開催されました。

滋賀県知事、大津市長はじめ多数の来賓や向殿校友会会長が出席され開催されました。

9月5日の琵琶湖の湖上前夜祭は、豪華客船ビアンカ号(280名)・ミシガン号(206名)満員のナイトクルーズで、船内でのディナーとデキシーランドジャズ、それに湖上の歓迎の花火も打ち上げられ全国から集まった校友会員は、満足し感動ものでした。

(前夜祭は当地域支部より・水井支部長・安松の二人が参加)

9月6日は、ホテルをバス2台で午前9時に出発し、近江大橋から琵琶湖で一番短い瀬田の唐橋を渡り石山寺へ参拝、紫式部が源氏物語を書いた源氏の間を見学し、昼食を済ませ大会会場の大津プリンスホールへ直行。

午後13時より滋賀県支部長・岩田守弘氏(昭和41年卒・法)の開会宣言を皮切りに第1部・記念式典/第2部・記念講演が行われました。

第3部・メインイベントの懇親会(午後17時～19時)は、コンベンションホール淡海で1200人の全国校友会員を集め盛大な交流会が開催されました。

「北部支部37名参加」大会最後には、恒例の全員で肩を組み校歌を歌って絆を深くし、来年は11月12・13日に開催の「全国校友鳥取大会で会いましょう！」を合言葉に別れを惜しみました。

(参加者幹事・水井支部長・垂水・後藤)